「熟議 2012 in 香川大学」を実施して

清　國　祐　二

はじめに

2012年３月３日（土）に「熟議2012in香川大学」を香川大学研究交流棟５階研究者交流スペースにおいて実施した。メインテーマを「地域とともに歩む大学づくり～香川大学の人材育成機能への期待を問う～」と設定した。熟議そのものへの参加者はおよそ90名、学外参観者がおよそ20名、学内スタッフ20名の総勢130名が会場を埋め、活気ある議論の場となった。長尾省吾香川大学長、合田隆史文部科学省生涯学習政策局長、平林正吉同生涯学習振興課長が主催者として、その熟議を終始参観し、最終的な提言を受けて講評するなど、会場は一体感あふれるものであった。本稿では、香川大学で開催した熟議の報告とともに、その成果と課題についてまとめたい。

１　「熟議」開催の目的

今回の熟議の開催にあたっては、地域の要請に向き合う香川大学となるよう、多様な主体が議論に参加する熟議の手法を用いて、香川大学の新しい未来像を形づくることを目指した。

香川大学は、地方に位置する国立大学法人として、地域密着型・地域貢献型の大学であることが期待されている。一般的には文理バランスの良い大学としてとらえられる本学であるが、その実態（資源）が地元香川県民に十分に知られているとは言い難い。

本学は、地方国立大学法人として、社会の要請に応える有用な人材を育成し、輩出するという重要な役割を担っている。香川大学憲章前文の中で私たちは、「個性と競争力を持つ『地域に根ざした学生中心の大学』」を標榜し、「世界水準の教育研究活動により、創造的で人間性豊かな専門職業人・研究者を育成」することを宣言している。また、社会に貢献する大学として、「社会が抱える課題に対応した実践的提言」を行える機関、「地域医療の中核機関」、「知識基盤社会における学習拠点」となることで、地域の文化・産業・医療・生涯学習などの振興に寄与する、と宣言している。この香川大学憲章をよりどころに、今回の熟議を企画立案した。

ここで改めて、熟議とは何かについて、文部科学省の熟議サイト（http://jukugi.mext.go.jp/）で確認すると、以下のように記述されている。

「熟議」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら政策を形成していくことです。具体的には、政策を形成する際の、下記のようなプロセスのことを言います。

1．多くの当事者（保護者、教員、地域住民等）が集まって、
2．課題について学習・熟慮し、議論をすることにより、
3．互いの立場や果たすべき役割への理解が深まるとともに、
4．解決策が洗練され、
5．個々人が納得して自分の役割を果たすようになる、

教育を取り巻く様々な状況の変化を踏まえつつ、課題に立ち向かい、乗り越えるための知恵と実行力を生み出していくためには、教育現場に関わる様々な立場の方による「熟議」に基づく教育政策形成を促進することが求められています。

翻って、本学には「香川大学構想会議」があり、各界の代表者が参画し、地域に不可欠な大学となるよう大所高所からご意見をいただいている。日常的には、中期目標・計画に基づき、本学教職員による自己評価･点検も実施している。そこから導き出される改善方策に基づき、可能な取組を行ってきた。そこで、これまで意見を聞き取れていなかった層をターゲットにして、多様な主体による、多面的な議論を展開いただくことを心がけた。テーマは、すでに触れた「香川大学の人材育成機能への期待」であるが、以下の通り４つのサブテーマを設定して、議論のポイントを絞ることにした。

①地域の高度な学びを支える大学となるように
大学には公開講座や講演会、企画展等の広く地域の方が学べる機会があります。
社会人向けの大学院や夜間主コースなどの学位プログラムも準備されています。
②地域で活躍する企業人を育てる大学となるように
６学部と９研究科（大学院）において、特色ある専門教育を行っています。
キャリア支援センターにおいても職業指導・就職支援に取り組んでいます。
③責任感あふれる教員・公務員・医療福祉従事者を育てる大学となるように
教育学部や医学部では教育・医療・福祉で活躍する人材を育成しています。
公務員を志望する学生も近年増加しており、セミナー等の開催をしています。
④夢を語り、叶えられる大学となるように
全国から数多くの学生が入学しています。学生は授業で学ぶほかに、ゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動等から多くのことを学びとっています。

①は生涯学習社会における大学の役割、②は産業・経済界へ人材を輩出する大学の役割、③は公共をキーワードに学校教育・地方行政・地域医療・地域福祉に人材を送り出す大学の役割、④は高校生・高校教員のもつ大学への期待、を語っていただこうという意図である。このことは、単に香川大学の未来像を描いていただくだけでなく、広く日本の高等教育機関のあるべき姿を描き出すことにもつながる議論になるのではないかと考えた。

2　熟議プログラム

＜キャンパスウォーク（オプション）＞

10：50－11：00　受付

11：00－12：30　キャンパスウォーク

幸町北キャンパス

①掲示板　→　②415教室　→　③博物館　→　④図書館

幸町南キャンパス

→　⑤模擬法廷　→　⑥保健管理センター　→　⑦グランド

→　⑧サークルボックス　→　⑨講堂

幸町北キャンパス

→　⑩加野教授研究室訪問　→　⑪学生食堂　→　昼食・解散

＜熟議＞

12：30－13：00　受付

13：00－13：20　開会行事

長尾省吾 香川大学長挨拶

合田隆史 文部科学省生涯学習政策局長挨拶

細松英正 香川県教育委員会教育長挨拶

13：20－13：50　香川大学紹介

クイズで知る香川大学（学生支援サークルMINtS）

香川大学と地域貢献

13：50－14：50　第１セッション

地域の願いを探る－香川大学に求めるもの－

15：00－16：00　第２セッション

その願いを実現させる具体的方策

16：00－16：30　全体発表

16：30－16：50　講評

長尾省吾 香川大学長

平林正吉 文部科学省生涯学習政策局生涯学習振興課長

16：50－17：00　閉会行事

３　グループ発表

第１セッションおよび第２セッションを経て、各グループから報告された「提言」は以下の通りである。発表の内容も含めて記録にとどめておく。

Ａグループ（テーマ①）

提言１　地域への情報発信強化に向けて県・市町と“交換広報”を行う。
提言２　地域の人が気軽に通える大学になるために県民大学登録制度を作る。
提言３　地域でかがやく人材を育てるために学生の地域活動の単位認定を拡大する。

大学の取組がなかなか地域に届いていないという課題がある。そこで、広報の強化を提案する。実現可能性の高いものとして、提言１がある。大学も地方自治体も広報誌をもっているので、大学から地域へ広報したいことを県･市町の広報誌に掲載し、地域から大学に広報したいことを、大学の広報誌に掲載する。この交換広報を通して情報共有ができ、効果が高まる。提言２は、大学を県民がさらに利用しやすくする提案である。誰でも香川大学への学生登録をするだけで、垣根が低くなり学ぶチャンスにアクセスできるというものである。提言３は、学生の力は地域の活性化につながる。本来は学生の自発的な地域活動が望ましいが、そこに導き入れるために単位化することを検討してはどうか。

Ｂグループ（テーマ②）

提言１　Mismatch 解消　四国八十八箇所　中小企業巡り
提言２　ながーーーーい　インターンシップ in 企業 ＮＰＯ

よき企業人となるためには座学だけでなく、地域との接点をもち、自分自身を育てていくことが大事である。提言１では、お遍路にちなんで、大学が提示した88箇所の中小企業を巡ることで、地域のために頑張っている中小企業の実態を知ることができ、就職への動機付けを行える。提言２では、大学生のうちに働くことの意義をもっと知るべきなので、そのための長期インターンシップを提案する。「働く」という意味では、企業だけでなくNPO法人も対象とすべきであろう。

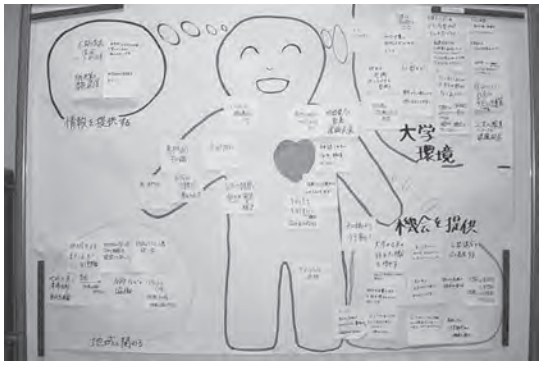
Ｃグループ（テーマ②）

提言１　学生と大学が共に地域への関心を高められる学習機会をつくる
提言２　大学・企業間を自由に行き来できる学びシステムが欲しい

地域をよく知ることによってのみ、地域の特性を生かして活躍できる人が育つ。提言１は、大学教育は正課・正課外を問わず、地域での学習機会の充実を図る必要がある。学生も地域の中で自主的な学びの場を作るなどの努力が必要である。提言２は、大学と企業の間をある程度自由に行き来できるシステムが必要ではないかということである。企業人となってから学びたい大学の授業もある。一般の人、高校生も大学がどのようなところか知る場を設けて欲しい。そのための学びシステムがほしい。

Ｄグループ（テーマ③）

提言１　地域へ自ら歩める人づくり
提言２　地域と香大を結ぶ何でも窓口
提言３　香大生と地域との協働による熟議の開催



情報は待っていてもやってはこない。情報を得るためには、学生自らが行動しなければならない。提言１は、地域に対して関心をもち、意欲的に行動できる学生を育てる必要がある、という意味である。提言２は、ワンストップサービスの必要性である。必要な情報がどこで手にはいるか判りにくい。情報窓口が一元化されることで、学生にとっても地域の人にとっても、情報へのアクセスが容易になる。その結果、地域と学生の距離が縮まることが期待される。提言３は、この熟議の経験を生かし、学生の主催する熟議の開催ができればよいのではないか、ということである。学生が地域の人を大学に招き込んで、さまざまな課題について議論できれば、活性化するのではないか。

Ｅグループ（テーマ③）

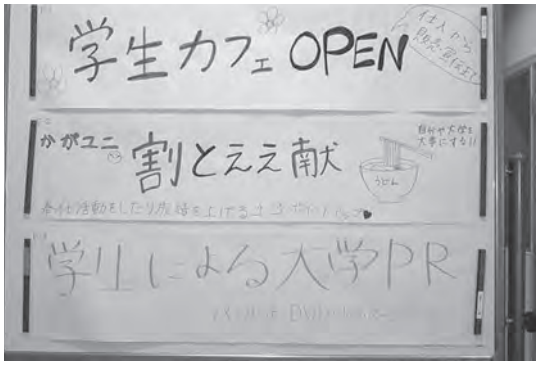
提言１　ボランティア活動に参加し、地域の人からフィードバックを得る中で大学のイメージアップを図り、香大生としてのプライドを持つ！！
提言２　地域・大学・企業・行政の窓口情報システム（通称窓口くん）をクリックすれば、すべてのボランティア・インターンシップ・催しの情報がゲットできる！
提言３　すべてが先生Project　垣根を越えての交流　先輩←→後輩　地域←→大学

大学と地域との間にある垣根を乗り越える必要がある。学生にとって地域とは「先輩」にあたるもので、

多くのことを学ぶことができる「先生」に他ならない。そこで、提言１は、地域へのボランティア活動への参加によって、大学のイメージアップにつながると同時に巡り巡ってそれは自分たちに返ってくることを実感してもらいたい。香大生としてのプライドが生まれることも大事である。提言２は、地域との窓口のワンストップサービスが必要である、ということである。提言３は、文字通り「地域は先生」という思いで地域に関われば、学びも増すということである。学生の学びの多元化が求められている。

Ｆグループ（テーマ④）

提言１　学生カフェOPEN（仕入れから販売・宣伝まで）
提言２　学生による大学ＰＲ（パンフレット・ＤＶＤ・ホームページ・グッズ）
提言３　かがユニ　割とええ献（奉仕活動をしたり成績を上げる→ポイントアップ）



大学生活の課題を考えることから始めた。例えば、学食のメニューが少ないことや学生のくつろげる場所が少ない、などが課題となる。それを解決する方法として、提言１の学生カフェを自主的に運営することを掲げる。学生の活動を見える化することで、モチベーションの向上や学生生活の充実につながると考えられる。提言２は、学生の欲しい情報が不足していることを受けて、必要な情報を学生の視点で発信することが有効であると考えた。自らが作成に関わることにより、香川大学に対する母校愛・誇りをもつことができる。提言３について、「割とええ献」の「割」は割引、「献」は貢献を意味している。奉仕活動などを行うことでポイントがたまり、このポイントに応じて学費の割引や学食メニューの無料券がもらえるようにする。短絡的ではあるが、インセンティブとして位置づけることに意味はあるだろう。これらの活動の結果、大学への愛着が増したり、地域や会社を大切にしたり、立派な大人へと成長できるのではなかろうか。

Ｇグループ（テーマ④）

提言１　大学と高校との交流
提言２　高校生が知りたい情報が掲載された情報誌の作成

熟議の中では、香川大学に求める意見が多かった。例えば、「大学と交流する機会をもっと増やして欲しい」とか、「実際に授業を受けている学生の声を聞きたい」などの要望である。一方、高校生にも出来ることがあり、「高校に大学の講師の方を呼んだり、大学の資料を自分達で集めたりすること」は積極的にやっていくべきだ。提言２では、現在の香川大学の情報誌は、大学側が自己アピールの場として作成されており、学生や高校生の知りたい情報が少ないところに課題を感じている。そこで、学生が今知りたい

質問を集めて、それに答える情報誌を作成することで、大学の魅力が増し志望者も増え、結果としていい大学づくりにつながる。

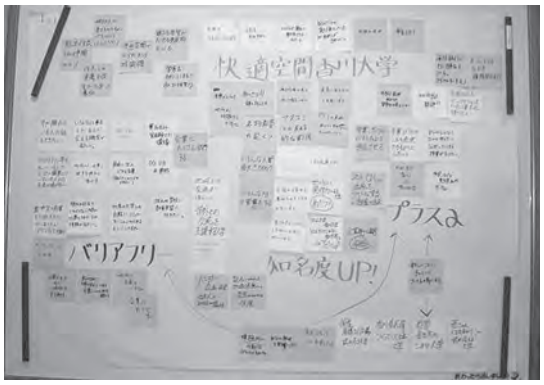
Ｈグループ（テーマ④）

提言１　Our学　コミュニケーション

大学と地域が、そして学生同士がどのようにすれば相互に繋がることができるのか、ということで議論が進んだ。現在ある、SNS（ソーシャル・ネットワーク・サービス）やフェイスブックは学生のみならず、多くの人々のコミュニケーション・ツールとして定着しつつある。HPのような一方的な情報発信に終わらないようにすることが大切である。そこで提言１の「Our学」を提案する。名前の由来は、「Kagawa」を逆さまから読んで「あわがく」、それをもじって「Our学」とやや無理をしたネーミングである。香川大学の特色を存分に生かした、双方向の情報共有を目指すこために、新しいコミュニケーションツールが必要である。

Ｉグループ（テーマ④）

提言１　大学の取り組みを社会にＰＲする
提言２　学生自らが地域と大学を結ぶコーディネーターになる
提言３　大学全体が一歩前へ進む精神を！　We can advance!!



学生がもっと積極的に地域に対して何らかのアクションを起こす必要がある。また、そのような積極的な学生がいることをPRすることで、積極的な学生を呼び込むことができる。このような望ましい循環をつくるといのが、提言１にあたる。提言２は、学生の能力のひとつとして「コーディネーター」を位置づけることが重要ではないか、という視点である。提言３は、大学全体が積極的になる必要性である。大学にはまだまだ地域に踏み出せるのりしろが大いにあるので、その積極的活用を図る必要性がある。

Ｊグループ

提言１　「Challenge なんでも受付所」をつくろう！！

大学に求めるものは何だろうと考えた結果、「夢を見つける場」であり、「将来に向けての勉強をしやすい環境」であることが共通見解として浮かんできた。そのために、大学内外のつながりづくりや共同イベントの開催が効果的ではないかとの意見があった。このような、学生の思いつきを形にするために、発案を受け付ける場所が大学の中にあることが望ましい。

４　熟議および提言への講評

１）学長講評

まさに熟慮した討議の結果、斬新なアイデアを数多く出していただき感謝申し上げる。ご指摘の通り、大学からの情報発信が十分でないことには同意する。相手にとって有効な情報を確実に届け、相手方からも情報をいただける、相互性の高い情報交換が大事だと考えている。大学の発信した情報に対する皆様方からの要望をリアルタイムに反映するシステムを構築したいと思っている。

次に、学生の地域活動への参加を単位化することについては前向きに考えたい。一方、ボランティア活動は自発的な活動であり、無償性に基づく活動であるため、その意義を考えると熟慮の必要性も同時に感じている。まずは、大学という組織として参加表明している、例えば瀬戸内芸術祭等のボランティアには単位化を導入することはできるのではないかと考えている。

企業人育成に関していえば、本学卒業生が就職直後の５～６月ごろに、大学役員が企業に伺いながら、卒業生の社会人としての活躍ぶりを確認してみたいと考えている。企業に出向いて、直接現場の指導者から話を聞くことで、企業と大学との連携がさらに深まるからである。

大学と企業とを自由に行き来できるシステムについては、知材センターなどで一部行われているが、特定の領域に限られているのが現状である。一般の方々も含めて、広く大学と企業、大学と地域がつながっていけるよう、工夫してみたい。

最後に、今回は高等学校からの参加が非常に多く、香川大学への関心が高いことを嬉しく思う。県内を中心に高等学校を訪問して学校説明会を行っているが、県外へも厚く広げたい。また、高校生との対話の中で、高校生が本当に欲している情報を発信していきたい。

２）文部科学省平林課長講評

今回の熟議は、年齢的に見れば、ご高齢の方から、壮年期の方、大学生、高校生と幅広く、業種も行政、教育、医療、企業、NPO等、多様な参加者によって行われ、とても意義深い内容であったと感じている。

テーマが抽象的であったため、提言をまとめるのに苦労があったと思うが、最終的には具体的な提言が数多く発表されて、とても感謝している。改めて情報発信の重要性をご提起いただいたと思っている。

また、大学生や高校生が自ら主体的に行動する提案を多々していたことに感心した。今後のさらなる活躍を期待させるものであった。

今回の熟議を通じて、香川大学を地域に開かれた

大学にしていこうとする気持ちがひしひしと伝わってきた。非常に具体的な提言であったので、今後は、大学内の熟議によって提言の実現性について更に議論を深めていって欲しいと思う。

これをきっかけにして、引き続き地域に開かれた大学、地域に貢献する大学づくりに取り組んでいただきたい。

５　成果と課題

今回の熟議は「地域と共生する大学づくりのための全国縦断熟議」として、文部科学省との共同主催の形をとった。初めての経験でもあり、清新さを感じた反面、準備段階において多少の戸惑いがあったことも事実である。しかしながら、そのことによって本学の教員と職員の一歩踏み込んだ連携が図れ、大きな財産となったと確信している。

熟議の参加者として、多様な主体に加わっていただいた。香川県、高松市、丸亀市、多度津町等の行政職員、香川県内の優良企業の職員、香川県と岡山県の高等学校教員および生徒、香川大学と親交の深い地域住民、まったくの一般参加、香川大学生および私たち教職員等、総数90名におよぶ参加者であった。参加者が多様であったため、議論が噛み合うかどうかを心配したが、それは杞憂に終わった。熟議のグループ成果は記述の通りであるが、熟議中盤あたりからどのグループも立ち上がって課題整理をし、提言に結びつけようとする取り組みの姿勢が成果の一部を物語っていると言えよう。

一方で、限られた時間の中で、参加者の思いを相互理解し、総意をまとめあげようとするには大きな負荷がかかったと思われる。各グループに配置されたファシリテーターが促進者としての役割を十分果たしたからこそ、導くことのできた成果であるとも言える。今回、ファシリテーターには教員のみならず、職員にも担当してもらった。これは４年間にわたって取り組んだ学生支援ＧＰ（「主体性の段階的形成支援システム（ＣＰＳ）」）における「教職員の協働」の取り組みの成果でもある。教員と職員の垣根をできるだけ低くして、協働可能な部分を見つけ出し、企画段階からチームとして取り組んだ結果である。この熟議という晴れ舞台で、その成果が確認できたことは関係者の喜びにもつながった。

他方、課題も残った。全学的な取り組みにしたいという思いがあったにもかかわらず、結果的には教育・学生支援機構および教育・学生支援室の中でほぼ完結してしまったということである。大きな組織にすると小回りが利かず、余計な労力が発生するわけだが、小さな組織で動かすと、他部局や事務局の当事者意識が薄らぎ他人事となってしまうことがよくわかった。今回の熟議はイベント性が強く、そもそも継続を前提としていなかったため、それでも十分実施できたわけであるが、私たちにとっては今後の大きな課題となった。上で「イベント性が強い」と述べたが、これをきっかけとして学内外の多様な主体が集まってテーマに沿った熟議を行うことへの関心は高まったと理解している。今後は少し小規模な開催にはなるであろうが、学生の有志とも相談しながら、継続の方向で検討に入りたい。

最後に、今回の熟議にご参加いただいたすべてのみなさまに、またそれを支えて下さった文部科学省生涯学習政策局のみなさま、ならびに本学教職員に心より感謝申し上げる。

熟議

2012 in 香川大学
地域とともに歩む大学づくり
～香川大学の人材育成機能への期待を問う～

【サブテーマ】意見募集!

①地域の高度な学びを支える大学となるように
大学には公開講座や講演会、企画展等の広く地域の方が学べる機会があります。
社会人向けの大学院や夜間主コースなどの学位プログラムも準備されています。

②地域で活躍する企業人を育てる大学となるように
6学部と9研究科（大学院）において、特色ある専門教育を行っています。
キャリア支援センターにおいても職業指導・就職支援に取り組んでいます。

③責任感あふれる教員・公務員・医療福祉従事者を育てる大学となるように
教育学部や医学部では教育・医療・福祉で活躍する人材を育成しています。
公務員を志望する学生も近年増加しており、セミナー等の開催をしています。

④夢を語り、叶えられる大学となるように
全国から数多くの学生が入学しています。学生は授業で学ぶほかに、ゼミ活動、サークル活動、ボランティア活動等から多くのことを学びとっています。

【オプション】キャンパスツアー

キャンパスウォーク 11:00～12:30

高校生や一般参加者向けのキャンパスウォークで、本学学生がご案内します。
昼食は、学生食堂が利用できます。

集合時間 平成24年3月3日（土）10:50
集合場所 香川大学研究交流棟玄関ロビー

熟議の進め方

1. サブテーマごとに10人程度のグループをつくります。グループ数は10～12を予定しています。
2. グループには、進行役とコメンテーターが一人ずつつきます。進行役がリードしながら、参加者の皆様から多様なご意見をいただきます。
3. 全員で熟議して、一定の方向性を導きます。大学づくりへの提言となるよう、意見をとりまとめます。
4. グループの代表に発表いただきます。それらを聴いて、主催者がお応えします。

【プログラム】

12:30～13:00	受付
13:00～13:20	開会行事
13:20～13:50	香川大学紹介
13:50～14:50	第1セッション 「地域の願いを探る…香川大学に求めるもの…」 4つのサブテ…マについてグル…プに分かれて熟議します
14:50～15:00	休憩
15:00～16:00	第2セッション 「その願いを実現させる具体的方策」
16:00～16:50	発表・講評
16:50～17:00	閉会行事

「熟議 2012 in 香川大学」参加申込書

お申込み締切日／平成24年2月20日（月）

E-mailまたはファックスにてお申込みください。なお、先着順となりますのでお早めにお申し込みください。
ご参加いただく方へは、2月24日（金）をめどに、案内状・要項を郵送いたします。

FAXでのお申込み 087-832-1275
E-mailでのお申込み syogse@ao.kagawa-u.ac.jp

ふりがな		性別	男・女
氏名		年齢	歳
電話番号	― ―	E-mail	
住所	〒	参加希望テーマ 参加したいサブテーマの（ ）に希望順に数字を入れてください。 （ ）①地域の高度な学びを支える大学となるように （ ）②地域で活躍する企業人を育てる大学となるように （ ）③責任感あふれる教員・公務員・医療福祉従事者を育てる大学となるように （ ）④夢を語り、叶えられる大学となるように（学生対象）	
職業（会社名・学校名等）		キャンパスウォーク参加 ※参加希望の方は○印を付けてください。	

★個人情報は本事業以外に使用致しません。

求む！
地域の大学づくりに皆様のご意見を

KAGAWA UNIVERSITY

熟議
2012 in 香川大学
地域とともに歩む大学づくり
～香川大学の人材育成機能への期待を問う～

日時 平成24年3月3日（土） 13:00～17:00
会場 香川大学研究交流棟5階 研究者交流スペース（幸町北キャンパス）
対象 テーマに関心のある方 100名（先着順）
締切 平成24年2月20日（月） 参加費 無料

目的・ねらい
未来の社会をつくっていくには、さまざまな主体の協働がかかせません。その中にあって、香川大学も社会に有用な人材を輩出し、豊かな教育資源を活かして地域の学習拠点となることを目指しています。その一歩として、地域の皆様にご参加いただき、「熟議」を通して香川大学の未来像を語り合っていただきます。この熟議の成果は香川大学にとどまらず、地域と共生する大学づくりに示唆を与える貴重なものとなります。

解説
「熟議（じゅくぎ）」とは、多くの当事者による「熟慮」と「議論」を重ねながら政策を形成していくことです。詳しくは、文部科学省のサイト「熟議カケアイ」をご参照下さい。http://jukugi.mext.go.jp/

文部科学省 MEXT

地域と共生する
大学づくりのための
全国縦断熟議

お問合せ・お申込み先 香川大学生涯学習教育研究センター
〒760-8521 香川県高松市幸町1番1号
TEL/087-832-1273 FAX/087-832-1275
E-mail syogse@ao.kagawa-u.ac.jp URL http://www.kagawa-u.ac.jp/lifelong/

【主催】香川大学 文部科学省 【後援】香川県 香川県教育委員会 高松市 高松市教育委員会